

三 ロンドン国際経済会議*

1 会議開催経緯関係

69 昭和8年1月7日

内田外務大臣より
沢田連盟事務局長宛(電報)

国際経済会議準備委員会における我が方対応
につき回訓

付記 昭和七年十二月四日付沢田連盟事務局長より

内田外務大臣宛公信機密連本公第三三八号

国際経済会議準備委員会における我が方対応
につき請訓

本省 1月7日後9時0分発

第一號 至急

(欄外記入)
壽府発貴信機密聯本公第三三八號ニ関シ、

一、御来示ノ如キ案ニハ本邦ノ主要利害關係國ガ之ニ参加ス
ルモノナルニ於テハ成ル可ク之ニ好意の考慮ヲ加ヘ度シ尤
モ本邦ニ於テモ爲替管理ニ付テ現行資本逃避防止法ヨリモ

大藏商工ト協議済

(付記)

機密聯本公第三三八號

(昭和8年1月6日接受)

昭和七年十二月四日

在壽府

國際聯盟帝國事務局長 澤田 節藏(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

經濟財政會議準備委員会対策ニ関スル件

本件準備委員会第二回会合ハ来ル一月初旬開催ノ予定ナル
趣ハ曩ニ往電ヲ以テ申進置キタル処右會議対策トシテ左記
事項ニ付政府ノ御意嚮承知シ度キ趣今般河合津島両委員ヨ
リ申越アリ就テハ右事項ニ関シ何分ノ儀次回委員会迄ニ間
ニ合フ様早目ニ御回電相煩度

記

一、去ル十一月会合ノ準備委員会ニ於テ英国委員ハ本委員会
第二回会合ニ際シ各委員ハ予メ政府ノ訓令ヲ受ケ各国ハ
一定期間内現在以上ニ通商障害ノ増加又ハ關稅引上ヲ爲
サヘルコトヲ約スヘキコトノ提案ヲ爲シタルモ成立セサ

更ニ嚴重ナル取締ヲ爲シ得ル權限ヲ得置ク必要アリト認メ
之ガ爲メ今次議會ニ外國爲替管理法案ヲ提出スル豫定ニシ
テ目下準備中(但シ該法案ニ於テハ通貨安定策上ノ必要ニ
基ク外國爲替ノ管理ヲ爲スヲ主眼トスルモノニシテ直接貿
易ノ管理ヲ目的トスルモノニアラズ)ナルノミナラズ關稅
ニ付テモ今次議會ニ於テ少數ノ引上ヲ爲スベキ品目モ有之
豫定ニ付キ其ノ含ヲ以テ我方確定の意向ノ發表ヲ留保スル
ニ於テハ準備委員會ニ於テ具體的の提案ヲ作成スルコトニ異
議ナシ

二、及ビ三、御来示ノ方針ニテ差支ナク尚右ノ外特ニ申進スベ
キモノナシ

四、銀問題ニ関シテハ本邦ハ現ニ小額紙幣ニ代ヘ銀貨ヲ使用
シ居レドモ將來永久ニ之ニ拘束セラルルガ如キ提案ニハ贊
同シ難シ銀賣出ニ付テハ追テ電報ス

(欄外記入)

リシカ或ハ本會議ノ劈頭ニ於テ此ノ種提案アルヤ不測ト
思料セラルハニ付テハ右ニ関シ予メ帝國政府ノ御意向御
垂示相煩度シ

二、第二回会合ニ於テハ金本位復帰及物價問題ニ付金本位維
持國側ト英國トノ意見相違ノ点ニ付更ニ審議ヲ重ネラル
ヘキ処第一回会合ニ於ケル意見交換ノ經過ニ鑑ミ本邦側
トシテハ大体英國側ノ意見ヲ支持スルヲ適當ト認メラルハ
ニ付テハ此ノ方針ノ下ニ第二回会合ニ於テ具體的の審議ヲ
進ムルコトノ致度

三、通貨安定問題ノ解決ニ關聯シ國際決裁銀行ハ中央銀行間
ノ協調機關トシテ主要ノ役目ヲ勤ムルコトヲ期シ居リ第
二回会合ニ於テハ右実行ノ具體案提示セラルハモノト予
想セラル右ニ関シ當方トシテハ主義上之ヲ承認スルモ右
具體案ニシテ本邦政府又ハ日本銀行ノ直接利害關係ヲ生
スル事項アル場合ニハ隨時請訓スルコトノ致度処右ニ付
何等承知シ置クヘキコトナキヤ

四、銀問題ニ関シテハ第一回会合ニ於テ委細論議スルノ時日
無カリシモ諸員ノ意向ハ銀ヲ金準備ノ一部ニ加フル考案
ニハ反対シテ結局小額紙幣ニ代フルニ銀貨使用ヲ以テス

ルコト並ニ銀賣出方法ヲ改善スルコトノ二案ニ付第二回
 会合ニ於テ審議セラルヘキ処右ニ関シ本邦トシテ何等具
 体的考案提出ノ御希望又ハ特殊ノ意見陳述ノ処要アラハ
 御固示相成度

本信寫送付先、在波蘭公使、在英津島財務官

70 昭和8年1月9日

内田外務大臣より
 沢田連盟事務局長宛(電報)

国際経済會議準備委員会における銀問題への

我が方対応につき回訓

本省 1月9日後7時30分発

第二號

往電第一号未段ニ関シ

銀賣出ニ付テハ本邦ハ賣出国ノ立場ニ在ラザルヲ以テ此處
 ヨリスレバ直接利害關係少ク右ニ関シ何等具体的希望又ハ
 意見ナキモ貿易上銀價ノ安定ヲ重視スルニ付銀ノ賣出ハ銀
 價ニ急激ナル影響ヲ及ボサザルコトヲ希望ス

~~~~~

アル事、各國ノ孤立的經濟主義ヲ改ムルノ要アル事英國  
 ニ於テハ一般ニ現狀ニ於テハ金本位復歸ハ實行不能且好  
 マシカラストナシ居リ速急ノ復歸ハ危險ニシテ復歸ノ爲  
 ニハ戰債問題ノ解決、通貨政策ニ關スル協定、金融機構  
 ノ建直シ通商障害ノ廢止ノ四點ハ絕對ノ條件ナル事、金  
 本位ハ運用宜シキヲ得ハ最善ナルモ運用惡シキ金本位ヨ  
 リ運用宜シキ統制通貨ヲ勝レリトスル事及英國ハ「イン  
 フレーション」ニ反對ナルト同時ニ物價下落ノ繼續ニ反  
 對ナル事等ヲ述フル處アリ

三、米國委員「ウイリアムス」ハ英國委員ノ四條件ニ全然同  
 意ニシテ戰債解決迄ハ現狀改善ノ望少ナキコト及不況打  
 開ノ爲ニハ各國ヨリ contribute スルノ要アル處米國ト  
 シテハ政府更迭ノ結果本年ハ戰債解決ト關稅緩和ノ二方  
 面ヨリ contribute スルノ望アルコト等ヲ述フ

四、佛委員「リスト」ハ諸國ノ金本位復歸迄ハ國際貿易ノ恢  
 復困難ナルモ金本位復歸ノ條件比率及時期ハ各國ノ決定  
 スヘキ處ナルコト物價引上ケニハ異議無キモ人爲的ナル  
 ヲ廢スルコト及資本並ニ貨物ノ移動自由恢復ノ爲ニハ爲  
 替管理撤廢ヲ要シ之力爲ニハ短期及長期債務ノ整理及國

71 昭和8年1月11日

沢田連盟事務局長より  
 内田外務大臣宛(電報)

国際経済會議準備委員会の一般討論における  
 注目すべき点について

ジュネーヴ 1月11日後発

本省 1月12日前着

第一號

河合津島兩委員ヨリ

準備委員會ハ九日午前開催九、十兩日ヲ以テ一般討論ヲ了  
 リタルカ其中注意ス可キ點左ノ通

一、劈頭議長ヨリ客年十一月組織委員會ニ於ケル「ノーマン、  
 デヴィス」ノ發言ヲ引證シ右ハ戰債問題ヲ除外セントス  
 ルモノト解セラルルカ本問題カ政治上ノ困難ヲ伴フノ故  
 ヲ以テ之カ論議ヲ避ク可キモノニアラスト思惟スル旨ヲ  
 述ヘ米伊委員ハ委員會ハ専門家トシテノ忌憚無キ意見ヲ  
 述ヘ政府ノ參考ニ供スルモノナレハ討議ノ範圍ハ何等制  
 限ヲ受ク可キモノニアラスト思惟スル旨述ヘタリ

二、次テ英國委員「レイスロス」ヨリ第一次會合後一般的ニ  
 ハ事態改善ノ跡無ク之ヲ放任スル時ハ一般的崩壊ノ危險

際資金設置等ヲ必要トスルコト等ヲ述フ

五、獨逸委員「ボツセ」及「フオツケ」ハ貨物移動ノ自由恢  
 復ヲ主張シ千九百三十一年ニ於ケル資本流出ノ經驗ニ基  
 キ各國ノ金本位復歸ヲ力説シ物價引上ノ必要ヲ認ムルモ  
 人爲的方策ヲ排シ金利引下ケ資金流通ノ圓滑ヲ期スヘシ  
 トテ短資ニ關スル協定ノ必要ニ言及ス

六、白耳義委員「フランキ」ハ金本位復歸ノ條件等ハ第一次  
 會合ニテ充分論議セラレサリシヲ以テ今回英國委員ノ提  
 案及國際資金設置案等ト共ニ財政分科會ニ回附スルヲ適  
 當トスヘシト提案シ「フレイザー」之ヲ支持シ右提案採  
 擇ニ決定セリ

七、尚津島ヨリ委員會ハ懸案整理問題解決ノ緊要ナルコト通  
 貨安定ノ諸條件通商自由恢復ノ諸條件及物價引上ノ方策  
 ニ論議ヲ集注スヘキコトヲ述ヘ更ニ金本位ニ關シ復歸ノ  
 時期等ハ各國ノ決定スヘキモノナルコト復歸ハ金偏在ノ  
 事實及金融上ノ援助ヲ得ルコト困難ナル爲戰爭直後ニ比  
 シ一層困難ナルコト將來ノ金本位運行確保ノ要アルコト  
 等ニ付詳述シ置キタリ

英、米、佛へ暗送セリ

~~~~~

72 昭和8年1月22日 沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

準備委員会の任務は終了し我が方においても
本会議および予備交渉への対応を考究する要
ある旨意見具申

ジュネーヴ 1月22日前発
本 省 1月22日前着

第一三號

往電第八號ニ關シ

準備委員會ノ任務ハ差當リ終了シタル處倫敦本會議開催時
期等ハ組織委員會ニ於テ政治的事情ヲ考慮ノ上適宜決定セ
ラル可ク其ノ時期ハ目下ノ處豫想困難ナルモ各國トモ準備
委員會ノ報告書ヲ基礎トシ會議對策ノ考究ヲ遂ケ尙豫備的
交渉等モ開カルル見込ナリ

今回ノ準備委員會ノ空氣ニ察シ英國政府ノ會議成功ニ對スル
熱心ハ勿論ナルカ特ニ米國委員ノ態度ニ徴シ次期米國政府
モ此ノ會議ヲ重要視シ世界經濟不況打開ノ對策ヲ樹立セント
スルノ意嚮顯著ニシテ尙爾餘參加國モ亦同様ノ態度ヲ示セリ
就テハ本邦側ニ於テモ正式會議並豫備交渉ニ對スル對策ヲ

考究準備スルノ要有ルヲ痛感セリ委細書面ヲ以テ報告ス可
キモ右不取敢稟申ス

73 昭和8年4月29日 在英國松平大使より
内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議組織委員會における開催期日決
定および米國代表よりの關稅休戰提案について

別電一 四月二十八日發在英國松平大使より内田外務
大臣宛第一八四號

關稅休戰に關する米國第一提案

二 四月二十九日發在英國松平大使より内田外務
大臣宛第一八五號
關稅休戰に關する米國第二提案

ロンドン 4月29日後發
本 省 4月30日後着

第一八三號

往電第一七九號ニ關シ

廿九日經濟會議組織委員會ヲ外務省ニ於テ開催、「サイモ
ン」議長日、佛、獨、伊、白各大使諾威公使及「デヴィス」

出席、先ツ開催期日ニ付議長ヨリ六月十二日ニ決定シタキ
旨ヲ述ヘ各國代表異議ナク之ニ決定、議長ハ英國皇帝開會
式ニ臨御勅語ヲ賜ハル由仰出タサレタル旨ヲ述フ場所ハ倫
敦「ジョーロジカル、ミューデイアム」ノ新館ヲ當ツルコ
トトス次テ聯盟交通委員會、萬國議員商事會議ヲ初メ各種
國際團體ヨリ會議參加希望ノ申出アリタル件ニ付協議シタ
ルカ一月壽府會合ノ決議ニ準シ各機關ノ重要性ヲ考慮シ夫々
適當ニ參加招請ヲ爲スニ決ス(詳細略ス)

右ニテ豫告アリタル議題ヲ議了シタル處米國代表ヨリ突然
二個ノ提案アリ

第一ハ別電第一八四號ノ如ク關稅休戰ニ關スル米國提案ノ
豫告ヲ事務總長ヨリ會議招請國ニ對スル書翰中ニ記載シテ
各國ニ豫メ知ラシムルコトヲ提議シタル處右ハ單ニ豫告ヲ
爲スコトニモアリ各國ニ少シモ早ク之ヲ知ラシムル方便利
ナリト認メ尙又世界輿論教育上ノ效果アリトノ米國代表ノ
説明ヲモ諒トシ議長初メ各國代表共異議ナク之ヲ可決セリ
第二提案ハ別電第一八五號ノ如ク前記第一提案ニ示セル米
國關稅休戰提議採用ノ必要ヲ承認シ且今日ヨリ本會議開催
ニ至ル迄ノ期間ニ於テ通商障礙トナル手段ヲ執ルヲ防ク目

的ヲ以テ組織委員會トシテ一種ノ決議ヲ爲サントスルモノ
ナルカ獨逸代表ハ組織委員會トシテ此ノ種決議ヲ爲スコト
ニ對シ疑問ヲ述ヘタルモ「デヴィス」ハ此ノ種決議ヲ爲ス
モ差支無ク且會議ノ成功ヲ期スル爲必要ナリト應酬セリ本
提案ニ關シテハ議長ニ於テモ稍々當惑ノ色ヲ示シ本件ニ關
シテハ未タ閣僚ト相談ノ邊無ク從テ英國政府トシテ贊否ノ
意見ヲ表明スル權限ヲ有セサル旨ヲ述ヘ伊國代表モ此ノ際
大使トシテ之ニ對シ直ニ贊否ヲ述フル位置ニ非スト述ヘタ
リ本使ハ本案ハ有益ナルヤモ知レス又其ノ動機ニ對シテハ
之ヲ多トスルモノナルモ斯ノ如キ案件ハ一應政府ノ意向ヲ
確メタル上ナラテハ本決議案ヲ「コムミット」スル能ハサ
ル旨ヲ述ヘタリ

本件ハ結局議長ノ提議ニ依リ各代表ヨリ其ノ本國政府ニ上
申シ其ノ意向ヲ確メタル上議長ニ通告シ議長ハ其ノ結果ヲ
待チ適當ナル時期ニ更ニ會合ヲ開ク可キコトニ決定セリ但
シ右米國第二提案ノ提出及其ノ處理ニ關スル協議ノ模様ハ
全部極秘ニスルコトニ申合セタルヲ以テ我方ヨリ絶對外部
ニ漏レサル様特ニ御配慮相成度シ
右米國第二提案ニ關シテハ昨今英國政府ニ於ケル關稅引上

計畫等ニ鑑ミ我方ニ取り有利ナル案カト思考セララルモ何分各方面ニ亘リ慎重考慮スルヲ要スル問題ナルヲ以テ津島財務官トモ相談ノ上前顯ノ通り意見表明シ置キタリ本件ニ關スル政府ノ御意向至急何分ノ儀御回電アリタシ
本電別電ト共ニ米、佛、獨、伊ニ轉電セリ

(別電一)

ロンドン 4月28日後発
本省 4月30日前着

No 184

Upon the convocation of the World Economic Conference all the governments will be asked by the American delegation to join in an agreement or an understanding to be carried out in good faith providing that all governments should refrain during the period of that truce from creating or making any material upward modification in tariff rates, imposing any new restrictions or enhancing any existing restrictions against the importation of goods which would give

domestic producers an additional ^(additional *) advantage as compared with foreign producers.

Further more, this truce would provide that the governments should agree to introduce no additional direct or indirect subventions in the expansion of their export industries, nor any discriminatory trade methods, nor any additional measures to promote dumping etc,

Matsudaira

(別電二)

ロンドン 4月29日後発
本省 4月30日前着

No 185

(strictly confidential)

The Organizing Committee of the Monetary and Economic Conference, convinced that it is essential for the successful conclusion of the Conference that the measures of all kinds which at the present time misdirect and paralyze international trade be not intensified,

recognizes the urgency of adopting at the beginning of the Conference a tariff truce the provisions of which shall be laid down by common agreement.

The Committee, further convinced that immediate action for this purpose is of great importance, strongly urges all Governments which will participate in the conference to abstain from all initiatives which might increase the many varieties of difficulties now arresting international commerce. One of the main motives which brings the Governments together in conference is to surmount these obstacles ; the Committee firmly urges all Governments during the period that will intervene before the conference, to act in conformity with the spirit of this objective.

Matsudaira.

~~~~~

昭和8年5月6日 内田外務大臣より  
在英松平大使宛(電報)

関税休戦提案に対する我が方対応振りにつき訓令

本省 5月6日後6時10分発

第八五號(至急)

貴電第一八三號末尾ニ関シ

米國第二提案ノ如ク各國力直ニ通商障礙ノ増加ヲ止ムル事ハ我方ノ希望スル所ニシテ主要利害關係國ガ同案ノ趣旨ニ

從フ限り之ヲ遵守スル考ナルニ付右趣旨ノ決議ガ成立スル様取計ハレ度シ

尤モ右ニ関シテハ本件提案直後ノ責任國関税引上頻出及日英印間懸案ノ現状ニ鑑ミ諸外國ニ於テ同案ニ反スル行動ヲ執リタル場合我方ニ於テモ之ニ對應シ適當ト思考スル行動ヲ執リ得ルノ自由ヲ留保シ置キ度キニ付右ニ御承知置相成度尚近ク實施ニ決定シ居ル右記措置ニ付テハ前顯米國案ニ賛成スルモ其ノ實施ヲ妨ゲラレズト諒解スルニ付為念右申添置カレタシ

(イ)粟関税率引上ニ関スル勅令案(百斤五十錢<sup>(錢)</sup>ヲ一円トス)

ハ既ニ諸般ノ手續ヲ了シ数日中ニ公布ノ手筈トナリ居ル處右ハ昭和七年法律第三四號米穀法改正法律附則第五項(昭和七年九月八日官報参照)ニ豫測セラレタル所ナルノミナラズ事実上專ラ滿洲ヨリ朝鮮ニ輸入セラルハ粟ニ

對スル課税ナリ

(ロ)近ク外國船舶輸入ニ付許可制度ヲ實施スル豫定ナル処右ハ  
船腹過剩緩和及船質改善ヲ目的トスル客年ヨリ實施中ノ  
計画(昭和七年九月二十七日官報通信省告示参照)遂行  
上必要ナル措置ニシテ新二計画セラレタルモノニ非ズ且  
右許可制度ハ解体用船舶ニハ適用ナク右制度實施後モ優  
秀船ノ輸入ハ制限セザル方針ナリ

尚近ク関東洲及滿鉄附屬地ニ於テモ外國爲替管理法ニ準ズ  
ル取締勅令ヲ施行スル豫定ナルモ右取締ハ本邦ニ於ケルモ  
ノト同様外國貿易殊ニ輸入貿易ニハ何等制限ヲ加ヘザルヲ  
以テ米國案ト抵觸スルモノニ非ズ爲念申添フ  
米、佛、独、伊各大使及ビ聯盟事務局長ヘ転電アリタシ

(欄外記入)

藏、農、商、通、拓ト協議済

75 昭和8年5月8日

在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

関税休戦提案に対する各国の対応について

(「デ」モ此點諒解シ何等異議ナシ)却テ正式ニ之ヲ提出  
シ英國側ノ既定計畫(假ニアリトセハ)除外ヲ主張セシム  
ルニ便宜ヲ與フルカ如キ結果ヲ招致スルコトナリテハ面  
白カラサルニ付此點ハ必要アラハナルヘクアツサリ話スニ  
止メ之ヲ留保ノ形式ト爲ササルコト本案成立ニ好都合ナル  
ヘキカト思考スルニ付右豫メ御含置ヲ請フ  
米、佛、獨、伊、聯盟局長ヘ轉電セリ

76 昭和8年5月9日

在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

関税休戦問題等に関する英国外務次官との会  
談について

ロンドン 5月9日後発  
本省 5月10日前着

第二一四號

五月九日「ウエズレイ」ニ會見シ

一、貴電第八五號米第二提案ニ對シ帝國政府ハ賛成ナル旨並  
ニ貴電御申越シノ次第全部ニ亘リ詳細ニ話シ外務大臣ニ  
傳達方申入レタル處「ウ」ハ日本政府ハ他國カ同意スル

第二一〇號

貴電第八五號ニ關シ

英國外相ニ通報スル前他國ノ態度ヲ探ルコト然ルヘシト思  
考シ五月八日「デビス」ニ會見シ先ツ貴電ノ趣旨ヲ内話シ  
タル處同人ハ我方ノ態度ヲ喜ヒ居リタリ尙他國ノ態度ヲ尋  
ネタル處伊國ハ無條件ニ米案ニ同意シ獨モ亦同意ヲ表シ居  
ルカ佛國ハ組織委員會ヨリ聯盟理事會ニ「レコメンド」ス  
ル形ニ修正スルノ希望ヲ有シ尙爲替下落ニ對スル相當ナル  
對抗策ニ關シ留保ヲ爲ス意向ノ如キモ右案ヲ面白カラスト  
思考ス自分ノ考ニテハ過日獨逸大使ノ注意モアリタルニ付  
何トカ原案ノ文句ヲ變更シ今日之ヨリ英國側當局ト話ヲ爲  
シ然ル上ニテ日本側ニモ其結果ヲ通報スヘシト述ヘタルニ  
付本使ハ聯盟理事會ニ「レコメンド」スル如キコトハ二重  
ノ手續ニテ我方トシテハ同意スル能ハサルヘキ旨ヲ述ヘタ  
ル處「デ」モ全然同感ノ意ヲ表シ居リタリ貴電御訓令ノ次  
第ハ之ヨリ英國側ニ通報スル積リナルカ貴電第八五號後段  
ノ三點ハ當然決議ノ趣旨ニ反スルモノニアラサルニ付

ロンドン 5月8日後発  
本省 5月9日後着

事ヲ條件トシテ賛成スル次第ナリヤト尋ネタルニ付本使  
ハ招請國全部ノ同意ヲ必要トスル次第第二非ス主要國ニ於  
テ之ニ從フ限リ我方ニ於テモ遵守スル意味ナル旨説明セ  
ルニ「ウ」ハ例ヘハ假ニ獨逸ノ如キ一國カ該案ニ不同意  
ヲ稱フ場合ニハ日本ハ獨逸ニ對シテハ義務ヲ負ハサル儀  
ナリヤト質シタルニ付本使ハ本件決議ニ加ハラサル國ニ  
對シテ日本カ獨リ拘束ヲ受ケサル事ハ勿論萬一右決議違  
反ノ行動ニ出ツル國有ラハ之ニ對シ適當ノ對抗策ヲ講ス  
ルノ自由ヲ留保スル事勿論ナリ但シ若シ組織委員會參加  
國中不賛成ヲ稱フルモノ有ラハ本案ハ成立セサルニ至ル  
ヘキカト思ハルカ日本政府ハ本案ノ趣旨ニ賛シ米案ノ  
通過ヲ支持スル積ナリト答ヘ置キタリ次テ「ウ」ハ獨逸  
ハ反對ナリト承知スル旨述ヘタルニ付本使ハ「デビス」  
ハ昨日獨逸ハ同意ノ趣語リ居リタリト述ヘタルニ「ウ」  
ハ不審ノ面持ニテ或ハ其ノ後變化シタルモノカト思考ス  
ル旨語レリ(右ノ次第第二付獨逸ノ態度ハ未タ判明セス)  
佛<sup>(ロ)</sup>ノ態度ニ關シ「ウ」ハ「デ」ノ話ト同様ノコトヲ述ヘ  
タルヲ以テ本使ハ聯盟理事會ニ「レコメンド」スル案ノ  
如キハ反對ナリト言ヒタルニ「ウ」ハ純理論トシテハ佛

案正シカルヘキモ實際上ハ不便アルヘシト述ヘタリ依テ本使ハ從來ノ聯盟ノ會議ニ徴シテ見ルモ一々理事會ニ「レコメンド」スルカ如キハ徒ニ手續ヲ煩雜ニスルノミニシテ何等ノ實益無カルヘシトテ極力反對シ置キタリ粟關稅ノコトニ關シテハ例外ヲ主張セラルル次第ナリヤト尋ネタルニ付本件ハ單ニ滿洲國ト朝鮮トノ關係ニ止マリ他ノ參加諸國ニ於テハ何等ノ利害關係ナキコトニ屬シ從テ本決議ノ趣旨ニ反スルモノニ非ス旁日本政府トシテハ此ノ際ハ態々通報スル程ノコトニ非サルモ他國等ノ誤解ヲ避クル爲メ特ニ御話スル次第ナリト述ヘ置キタリ船舶輸入問題及爲替管理問題ニ付「ウ」ハ今回ノ提議力主トシテ關稅引上問題ニ關スルモノト認メ居リ從テ兩者ニ付テハ重キヲ置カサル様見受ラレタリ次イテ英國政府ノ態度ヲ尋ネタル處「ウ」ハ英國政府トシテハ妥協進捗ヲ希望シ居ルモ英國政府トシテノ主張ハ自分ハ承知セスト語リタリ（以上極秘）

二、貴電第八二號ニ關シ詳細事情ヲ説明シ本件ノ不公平ナル所以ヲ述ヘ且經濟會議開催前特ニ通商ニ關スル各國間ノ感情緩和ヲ必要トスル等ノ趣旨ニモ反（スル）旨ヲ説キ

於テ速ニ商議開始ノ必要ヲ重ネテ強調シタルニ「ウ」ハ之ヲ諒トシ大臣ニ申シ傳フ可キ旨述ヘタリ

米、佛、獨、伊、巴里聯盟、「シムラ」ヘ轉電セリ

77 昭和8年5月10日 在英国松平大使より  
内田外務大臣宛（電報）

關稅休戰問題に關し英・米が妥協した新修正

案への我が方対応につき請訓

別電 五月十日発在英国松平大使より内田外務大臣

宛第二一九号

右新修正案

ロンドン 5月10日後発  
本省 5月11日前着

第二一八號（至急）

往電第二一〇號ニ關シ

昨九日夕「デヴィス」ヨリ其ノ後英國側當局ト相談ノ結果同氏ノ修正案ヲ基礎トスル妥協案ヲ得タル旨内報シ來リタルカ本十日外務省ヨリ別電第二一九號ノ如キ右妥協案（英米兩國トモ同意）ヲ送付シ來ルト共ニ之ニ對スル日本政府

斯ノ如キ處置ヲ執ルコトカ我實業家ノ神經ヲ刺戟スル所以ヲ述ヘ實施期日前ノ契約品及積出シ品ニ對スル除外取扱ニ付篤ト考量ヲ求メタル處「ウ」モ之ヲ諒解シ直ニ主管局ニ移課<sup>(譯)</sup>スヘキ旨述ヘタリ

三、<sup>(3)</sup>西部阿弗利加條約脫退問題ニ關シ既ニ商務省ニハ話シタル次第ナルカ日印條約廢棄問題カ我方ニ相當衝動ヲ與ヘ居ル今日重ネテ斯ノ如キ措置ニ出ララル事ハ來ル可キ當業者間ノ協議會ニモ惡影響ヲ與フ可キノミナラス米國第二案ノ趣旨ニ顧ミルモ不穩當ト認メララルニ付英國政府ニ於テ再考アリ度キ旨申入レタル處「ウ」ハ之ヲ諒解シ之亦關係局ト協議スヘキ旨申シ居リタリ

四日印條約廢棄問題ニ言及シ外務大臣及商相ニ於テ印度省ニ移牒スヘキ旨申述ヘタル次第及三宅總領事ト印度當局トノ會談ノ次第（「シムラ」發閣下宛電報第五四號）モ述ヘ無條約狀態ヲ避クル爲暫定協約ニ依リ現行條約ヲ延期スルカ或ハ他ノ方法ヲ採ルカ兎ニ角至急商議開始ノ必要有ルニ付或ハ先ツ印度當局ト我代表者間ニ實質上ノ話ヲ進メタル後形式的話合ヲ當方ニ移スカ或ハ當地ニ於テ商議ヲ開始スルカ孰レニモセヨ英國又ハ印度ノ孰レカニ

ノ意嚮ヲ承知シ度旨並本件審議ノ爲明十一日午後三時外務省ニ於テ組織委員會ヲ開催シ度旨申越シタリ前記修正案ニ對シテハ其ノ儘賛成シ然ル可シト思考スルモ爲念大至急何分ノ儀御回電アリ度シ

本電別電ト共ニ米、佛、獨、伊、壽府ヘ轉電セリ

（別電）

ロンドン 5月10日後発  
本省 5月11日前着

No. 219 (Urgent)

<sup>(1)</sup> "The Governments of....., .....and....., etc.,

represented in the Organising Committee for the Monetary and Economic Conference, convinced that it is essential for the successful conclusion of the Conference that the measures of all kinds which at the present time misdirect and paralyze international trade be not intensified pending an opportunity for the Conference to deal effectively with the problems created thereby, recognize the urgency of adopting at the beginning of the Conference

a tariff truce, the provisions of which shall be laid down by coming agreement.

“The said Governments, being further convinced that immediate action is of great importance themselves agree, and strongly urge all other Governments participating in the Conference to agree, that they will not, before the 12th of June nor during the proceedings of the Conference, adopt any new initiatives which might increase the many varieties of difficulties now arresting international commerce, subject to the provisions) that they retain the right to withdraw from this agreement at any time after July 31st, 1933 on giving one month’s previous notice to the Conference.

② It is understood that action taken in accordance with the considerations set out in Part I B Sub-Section 11 of the Draft Annotated Agenda submitted by the Preparatory Commission of Experts (C 48. M. 18. 1933) would not be in conflict with this Resolution.

“One of the main motives which brings the govern-

リ度シ

尚新修正案ニハ themselves agree 及び agreement ナル文字ヲ採用シ脱退ノ規定迄モ挿入シアル為組織委員會參加國間ノ國際約定ナル如ク思考セラルル處往電第九四號ノ次第アルニ付前記字句ヲ削除シ勧告の決議トナル様御配慮相成度若シ法律上拘束力ヲ有スルモノニ署名ヲスル事トナリタル場合ニハ一應請訓セラレ度ク其ノ違ナキ時ハ「アドレフェレンダム」ニテ署名セラレ度シ  
尤モ前記ノ点以外ニ付テハ貴電第二二五號ノ通り取計ハレ差支ナシ  
本電貴電第二二五號ト共ニ米、佛、独、伊、露府聯盟事務局長ヘ転電アリタシ

79 昭和8年5月11日

在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

関税休戦新修正案に関する不明点につき米英の担当者に確認について

ロンドン 5月11日後発  
本省 5月12日前着

ments together in Conference is to hurl out the obstacles to international trade above referred to ; the said Governments therefore urge all other Governments represented at the Conference to act in conformity with the spirit of this objective.”

Matsudaira.

78 昭和8年5月11日

内田外務大臣より  
在英国松平大使宛(電報)

関税休戦に関する新修正案中の不明点確認方訓令

本省 5月11日後6時10分発

第九五號 大至急

貴電第二一八號ニ関シ

御来示ノ妥協案ニハ一、二不明ノ点アリ殊ニ貴電第二一九號後段 Part I B sub-section 11 (議題案ニハ 11 ナク電報ノ誤ト思考セラル)ニ適合スル行動トハ如何ナル行動ナルヤ不明ナルガ右ノ結果我方ノ重要視スル為替差額補償附加税ノ新設乃至増率ヲ認ムル事トナルニ於テハ賛成シ難キニ付同税ノ新設乃至増率ヲ阻止シ得ルモノトナル様御配慮ア

第二二七號(大至急)

① 貴電第九五號前段ノ件ハ「サブ、セクション」ニナリ右ニ關シ早速英米側ト話合ヒタル處「デビス」ハ本條項ハ英國側ノ主張ニ依リ之ヲ挿入シタルモノナルカ右ハ為替低落ニ對スル新税又ハ増税トハ全然關係無キモノト了解シ居レリト述ヘタルニ付更ニ本件主任タル英國外務次官補「マウンゼイ」ニ面會質シタル處右ハ單ニ物品ノ價格ヲ維持スルコトヲ目的トスルモノニシテ製産又ハ輸出制限ノ如キ措置ヲ意味シ例ヘハ護謨ノ貯藏餘リニ多量ニ上ル場合其ノ價格ノ低落ヲ防ク爲一部ヲ廢棄スルカ如キコトヲ意味スルモノニシテ為替ノ問題トハ何等關係無シ尤モ佛國側ニ於テハ為替低落ニ對スル對抗策(脱)見テ留保ヲ爲スヤモ知レサレトモ英國側ニテハ之ニ對シ異存ヲ唱ヘサル積リナリ何レニスルモ該條項中ニハ我方懸念ノ如キ意味ハ這入り居ラスト述ヘタリ

② 「アグリーメント」ノ形式ヲ避クルコトニ關シテハ「デビス」ハ右修正ハ英國側ノ希望ニ基キ米側ニテ贊意ヲ表シタルニ過キサル旨述ヘタルニ付「マ」ニ對シ詳細我方ノ立場ヲ説明シタル處「マ」ハ決議案ハ單ニ普通ノ決議案トシテ

通過セシムルコトヲ目的トシ何等特別ノ文書ヲ作ル次第ニ非ス又署名スル意思モ無ク其ノ意味極メテ輕キモノナルニ付此ノ儘ニ同意セラレンコトヲ希望スル次第ナリトノコトナリシヲ以テ本使ハ成ルヘク *usage* スル形式ニ止メンコトヲ希望スルモ場合ニ依リテハ「アドレフアレンドラム」ニテ承諾スルカ如キコトニナルヤモ計ラレス此點政府ニ請訓中ノ旨答ヘ置キタリ

右ノ次第ニ付テハ我方ノ利益ヨリ見テ餘リニ本決議ノ意味ヲ弱クシ過キルヨリハ本修正案ヲ其ノ儘トシ「マ」ノ言ノ如ク只署名セサル形式ニ依ルコト却テ都合ナラスヤト思考ス御考量ヲ請フ

米、佛、壽府聯盟ヘ轉電セリ

80 昭和8年5月12日 内田外務大臣より  
在英国松平大使宛(電報)

関税休戦新修正案が法律的拘束力を持つ以上  
同案がそのまま採択される場合にはアド・レ  
ファレンダムに署名方訓令

本省 5月12日午後4時50分発

ニ付七月末日以後ニ付テハ倫敦會議ノ成果ヲ見タル上其ノ方針ヲ再考スルノ要アリ之ガ為前記聲明案中ノ括弧内ニ七月末日ヲ限度トスト記セル次第ナリ)

尚英米妥協案中ノ *It is understood* ニ始マル留保條項ハ御来示ニヨレハ別段我方ニ実害ナキ様思考スルモ之ヲ決議中ニ入レタル結果佛國等ヨリ為替「ダンピング」税ニ関スル留保條項ヲ同様決議中ニ挿入方要求スルノ勢ヲ順致スルノ虞アリト思考セラルルニ付右ノ如キ形勢アラバ此ノ種ノ條項ハ一切決議中ヨリ削除シ議事録中ニ各國代表聲明トシテ記入スル程度ニ止メ我方ニ於テ為替「ダンピング」税ヲ承認シタルガ如キ感ヲ与フル事ト為ラザル様御配慮相成度シ貴電ノ通り轉電アリタシ

81 昭和8年5月13日 在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

関税休戦案に我が方等はアド・レファレンダムに署名し同案が可決された経緯について  
別電一 五月十三日発在英国松平大使より内田外務大

臣宛第二三二号

第九七號 大至急  
貴電第二二七號ニ関シ

新修正案ハ署名ヲ要セザル決議案トスルモ組織委員會参加國ヲ法律上拘策スルモノノ如ク思考セラル、ニ付往電第九五號ノ問題ノ字句ヲ削除シ最初ノ米國案ノ如キ勧告的決議トナル様御盡力相成度右案ニテ同意ヲ取付ケ得ザルハ組織委員會参加國ノ部分ニ就テハ例ヘバ「組織委員會ハ同委員會會参加國代表者ガ其ノ政府ハ倫敦會議終了迄(但シ七月末日以後ニ及ブハ七月末日ヲ限度トス) 國際通商ノ障礙ヲ増加スル措置ヲ執ラザル意図ヲ有スル旨聲明シタル事ヲ了承セリ」ト云フガ如キモノトナシタル上ニテ賛成スル事ト致度ク(右何レニ依ルモ御裁可ノ問題發生セズ) 右何レノ案モ成立セズ英米妥協案ノ儘採擇セラル、事トナリタル場合ニハ「アドレフェレンダム」ニテ賛成ノ上其旨議事録ニ記入セシメ置カレ度シ(英米妥協案ノ脱退規定ハ法律上拘束力アルガ如キ感ヲ与フルヲ以テ之ヲ削除スル事適當ト思考スル處國際經濟會議ガ予期以上長期ニ亘ル事モアルベク我方トシテハ印、支等本邦ノ主要貿易國ノ態度不明ノ今日長期ニ亘リ本決議案ノ拘束ヲ受クル事ハ好マシカラザル

関税休戦決議コミニケ

二 五月十三日発在英国松平大使より内田外務大臣宛第二三四号

関税休戦決議に対するドイツ側留保

ロンドン 5月13日前発  
本省 5月13日後着

第二三一號  
往電第二三〇號ニ關シ

一、十二日午後外務省ニ於テ組織委員會開催「サイモン」議長始メ日米佛、獨、伊、白、諾威代表出席(英國側ヨリ「エリオット」農務大臣同席) 先ツ議長ヨリ正式ノ討議ニ入ル前ニ非公式ノ意見交換ヲ行ヒ度シトテ英國側ヨリ往電第二一九號決議案特ニ *It is understood* 以下ノ條項ハ物價維持ノ爲生産又ハ輸出ノ制限ヲ爲スコトヲ主トスルモノナルコトヲ説明シ本案ノ採用ハ目下ノ時局ニ當リ精神的效果大ナルヘキコトヲ述フ本使ハ *It is understood* 云々ハ爲替補償關係等ノ設定ヲ認ムル趣旨ニ非スト諒解スト述ヘタルニ對シ米國代表ハ本使ノ言ニ同意ヲ表シ又列席ノ「エリオット」モ本項ハ生産及輸出ノ調節ヲ目的トスルニ過キスト



述フ次イテ本使ハ政府ハ決議原案ニ對シテハ異存ナカリシ次第ナルカ新案ニ依レハ *Article* 云々ノ字句及脫退條項アルヲ以テ如何ニモ法律上ノ拘束力ヲ有スル感ヲ呈シ之ニ對シ同意ヲ爲スニハ國內法上ノ手續ヲ經サルヘカラス素ヨリ本案ノ趣旨ニハ欣然贊意ヲ表スルモノナルヲ以テ *Article* ノ字句ヲ原案ノ如ク *urge* 云々トナシ「レコメンデイション」ノ形式トナスコト適當ナルヘシト提言シタルカ之ニ對シ米諸其他ノ代表ハ字句ノ修正ヲ爲ストキハ更ニ根本力崩ルルコトナルヘキヲ以テナルヘク本案ニテ進ミタキ旨ヲ力説シ英代表ハ我方ニ同情ヲ表シ「アド、レフアレンダム」ニテ贊成出來マシキヤト述ヘ本使ハ多數ノ國ヲ勸誘シテ本決議ニ加ハラシムル上ニ於テモ法律の國際協定ノ形ト爲サルコト然ルヘシト思考スルモ本提議ニ對シ如何ニシテモ同僚ノ同意ヲ受クルコト能ハサルニ於テハ「アド、レフアレンダム」ニテ同意スルノ外ナシ尤モ若シ一國ニ於テ本協定ニ違反シ日本ノ利益ニ反スル如キ行動ヲ採リタル場合ニハ日本政府ハ自國民ノ利益ヲ保護スルニ適當ノ方法ヲ講スルノ自由ヲ留保スルコト勿論ナリ此點ハ他國モ同様ナルヘシト言ヒタルニ各國代表ハ右ハ當然ノコトニシテ特ニ留保

ノ必要ナルカヘシト述ヘタリ次テ獨代表ハ國內上ノ緊急事態ノ發生シタル場合ニ於テハ本決議ノ拘束ヲ受クルコトハ困難ナルヘキ旨ヲ述ヘ又伊代表ハ本國政府ヨリ同訓全部出揃ハサルカ政府ハ決議ノ趣旨ニハ異存ナキモ(一)組織委員會參加國ト本決議ニ加入セサル國トノ關係如何(二)一國ノ爲替著シク下落シタル場合ニ於テハ關稅休日モ其效果ナキニ至ラサルヤ等ノ點ニ付疑義ヲ有スト語リ尙爲替下落ノ場合ノ處置ヲ採ルコトハ本決議ニ違反セサルコトヲ挿入スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケ居ルコトヲ述ヘ爲替ノ著シキ下落ヲ見タル場合ニ於ケル財政上ノ措置ニ關シ留保ヲ爲ササルヲ得スト述ヘタルニ依リ本使ハ右ノ如キコトヲ決議中ニ入ルコトニハ同意シ難シト述ヘタルニ英米モ亦之ヲ挿入スルコトヲ好マス議長ハ緊急ノ場合ニハ議長カ組織委員會ヲ召集シテ議スルコトトシ然ルヘシトテ右提議ヲ退ケタリ更ニ其他ノ代表ヨリ意見ヲ述ヘル處アリ議容易ニ纏マラサリシ處一時休憩ノ上懇談シタル結果

(一)獨代表ノ留保ニ付テハ別電第二三四號ノ通緊急事態發生シタル場合ニ於テハ議長ニ於テ組織委員會ヲ召集シテ事態ヲ攻究スヘキコトト爲スコト又伊國ノ主張ヲ緩和スル爲

爲替暴落ノ問題ニ付テモ議長カ要求セラルル場合ニハ組織委員會ニ於テ議スルコトトスル一句ヲ挿入シタルニ付本使ハ重テ我方ハ爲替下落ニ件フ新稅又ハ増稅ハ政府トシテ承認スルコト能ハスト述ヘタルニ英米ハ決シテ右ノ如キ「コムミット」ヲ與フル趣旨ニアラスト言明セリ

(二)獨、佛等ノ留保、我方ニ於テ「アド、レフアレンダム」ニテ同意シタルコトハ「プロセ、ベルバル」ニ挿入スルト

(三)議長ハ本決議案ヲ「プロセ、ベルバル」ト共ニ他國ニ送附シ速ニ其贊同ヲ求ムルコトニ纏リタルヲ以テ正式討議ヲ開キ右「ライン」ニ依リ議事ヲ進メタルカ *It is understood* 以下ノ條項ハ決議ノ末尾ニ「ノート」トシテ附加スルコトトナシタル上我方カ「アド、レフアレンダム」ニテ贊成シタル外伊、獨代表ハ今一應政府ニ相談スル意味ニ於テ「アド、レフアレンダム」ニテ同意シ本案ノ可決ヲ見タリ尙本日ノ會議ノ模様ニ關シ別電第二三二號ノ通「コンミュニケ」ヲ公表スルコトニ打合せ散會セリ

二、尙貴電第九五號修正案「組織委員會ヲ云々」ニ關シテハ元來獨逸等ハ組織委員會ハ關稅休日ニ關シ何等決定ヲナス

權限ヲ有セストノ理由ニ依リ米國原案ノ「フォーミュラ」ニ反對シ居リタルノミナラス英米側トノ話合ヒノ結果到底通過ノ見込ナキニ付本使ハナルヘク勸告ノ形式ニ依ラシムルコトニ努力シタルモ各國ノ贊助ヲ得ルニ至ラサリシヲ以テ已ムヲ得ス「アド、レフアレンダム」ニテ同意シタル次第ナリ御諒承ヲ請フ

本電別電ト共ニ米、佛、獨、伊、巴聯ヘ轉電セリ

#### (別電一)

ロンドン 5月13日前發  
本 省 5月13日後着

No. 232

#### Communiqué

(Committee 2)

The Organising Committee of the Monetary and Economical Conference met at the Foreign Office this afternoon under the chairmanship of Sir John Simon to consider the proposal for instituting a "Tariff truce" in relation to the impending World Conference which is to meet in London on June

12th under the presidency of Mr. Ramsay MacDonald.

All the members of the Organising Committee <sup>(Committee 2)</sup> were represented viz :

Germany by the German Ambassador

Belgium by the Belgian Ambassador

United States of America by the American Ambassador

France by the French Chargé d' Affaires

Italy by the Italian Ambassador

Japan by the Japanese Ambassador

Norway by the Norwegian Minister

The Committee had before them the following resolution which was unanimously approved :

"The Governments of the United Kingdom, Germany, Belgium, United States of America, France, Italy, Japan and Norway, (以下左電第二一九號 represented on the Organising Committee ヲリ one month's previous notice to the Conference 迄同シ次ニ同電末尾ノ一項ヲ其儘入ル "Note トシテ次ニ It is understood that action.....in conflict with this resolution." )

一項ヲ small type ニテ挿入ス)

Certain explanations and qualifications were included in the Procès Verbal. The chairman was requested to communicate the above resolution <sup>(resolution 2)</sup> to the other Governments participating in the World Conference, together with a copy of the "Procès Verbal", inviting them to adhere to its terms without delay.

Matsudaira,

(原電11)

ロンドン 5月13日前発  
本省 5月13日後着

No. 234

If during the currency of this resolution any unforeseen emergency or critical situation arose which materially affected the operation and application of the resolution, then I, as Chairman, would, on the request of a government that was materially and adversely affected, summon

the Organising Committee in order that Committee should reconsider the situation in the light of the new facts which has arisen.

Matsudaira,

82 昭和8年5月17日

内田外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

英国下院における同国貿易局長の関税休戦決

議に矛盾する発言につき真相調査方訓令

本省 5月17日後8時10分発

第一〇七號

十五日ノ英国下院ニ於テ保守党議員ノ質問ニ対シ貿易局長ハ英国政府ハ関税休日中何時ニテモ英国竝ニ英帝國內各地ニ於ケル日本織物ノ進出ノ問題ヲ別箇ニ処理シ得ル權利ヲ留保スルコトニ付常ニ留意シ居リ既ニ各國トモ協議ヲ遂ゲ居レリト答弁シタル趣ノ新聞報アル処右ハ組織委員會ニテ成立シタル関税休日決議ノ容認スル所ニ非ズト思考セラル既ニ各國留保ニ依リ効力著シク弱メラレタル右決議力英国側ノ右関税引上迄モ容認スルモノナリトセバ各方面ノ経済

會議ニ対スル熱意ヲ冷却セシメ將來ニ於ケル本邦側対策決定上ニモ悪影響ヲ及ボスノ虞アル処真相御取調ノ上何分ノ儀同電アリ度シ

83 昭和8年5月18日

内田外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

関税休戦決議の根本精神に背馳する英国蔵相

発言につき抗議方訓令

本省 5月18日後8時30分発

第一〇九號

貴電第二四八號ニ関シ

帝國政府ニ於テハ本件蔵相ノ説明ハ後記ノ通り関税休戦ノ根本精神ニ背致シ延テハ倫敦會議全般ノ成功ニ至大ナル關係アルモノト了解スル次第ニ付貴官ハ至急右記趣旨ヲ書面ヲ以テ英當局ニ申入レ其ノ反省ヲ促サレ度シ

(一) 当方ノ如ク豫メ諒解ヲ取付ケズシテ関税休戦決議成立後新ニ輸入税ヲ増加スルコトハ通商障礙ヲ増加スル new initiative ナルコトハ明白ニシテ五月十二日以前ニ申請ヲ受付ケタル品目ニ関スルト否トヲ問ハズ右決議ニ違反

ス若シ英國側解釋ヲ採用ストセバ苟クモ何等カノ計畫アリタル措置ハ勿論單ニ當業者ノ陳情アリタルニ過ギザルモノニ付テモ関税引上等ヲ為シ差支ナキコトスルニ非レバ公正ヲ失スルコトナルベク（輸入税諮問委員會ヘノ申請受付ヲ以テ「ニユー、イニシアチヴ」ナリヤ否ヤヲ決スル標準ナリトセバ此種委員會ノ存置ナキ國ニ付テハ當業者ノ政府ニ對スル陳情書提出モ亦右標準トスルコトヲ要ス）而シテ右見解採用ノ結果ハ本件決議ヲシテ殆ンド實効ナキモノタラシムルノミナラズ本決議ニ未加入ノ諸國ヲシテ本決議加入前及經濟會議開會前ニ各種通商障礙ヲ新ニ設定シ又ハ計畫セントスルノ機運ヲ助長スルニ至ルヘシ

(二)通商障礙ノ緩和乃至撤廢ヲ目的トシ其ノ第一步トシテ採擇セラレタル決議ガ右英國側解釋ノ如キモノニ非ザルコトハ我方ノ確信スル所ニシテ又關係國政府モ我方ト同意見ナリト思考ス

(三)經濟會議ニ依リ各國協力シテ不況打開策ヲ講セントスルニ當リ英國藏相ガ御來示ノ如キコトヲ述ベタルハ我方ノ頗ル意外且遺憾トスル所ニシテ英國政府ガ國際經濟會議

85

昭和8年5月19日

在英国松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

関税休戦決議問題に關し英國当局に対する公文をもつての抗議は差控えたい旨意見具申

ロンドン 5月19日後発

本省 5月20日前着

第二七〇號

貴電第一〇九號ニ關シ

本件ニ付テハ當初當方ニ於テモ貴電同様ノ感ヲ懷キタルヲ以テ發電當日(十六日)不取敢加藤ヲシテ「マウンゼイ」次官補ニ會見ノ上貴電ト同趣旨特ニ大藏大臣ノ議會ニ於ケル答辯ハ單ニ五月十二日以前ニ關稅諮問委員會ニ申請濟ノモノニ對シ増税シ得ルモノナルコトヲ述ヘラレタルニ過キスシテ必スシモ増税實行ノ意圖ヲ表明セラレタルモノニアラスト認メラルルモ斯ノ如キ報道カ日本ニ於ケル當業者ニ對シ大ナル不安ヲ與ヘツアルコト疑ナク假ニモ右答辯中ニ言及アリタル絹關稅ノ引上實行ノ如キ事アランカ其ノ日本當業者側ニ對スル打撃ハ勿論右ハ關稅休戦決議ノ本旨ニ反スルノミナラス來ルヘキ經濟會議ニモ面白カラサル影響

ノ成功ノ為メ本件決議ノ解釈ニ付再考ヲ加ヘ我方解釈ニ同意セラレンコトヲ切望ス  
貴電ノ通り轉電及轉報アリタシ

84

昭和8年5月18日

内田外務大臣より  
在米國出淵大使宛(電報)

対英國抗議に米國の同調を得られるよう米國當局へ申し入れ方訓令

第一二五號

本省 5月18日後7時0分発

在英大使宛往電第一〇九號ニ関シ

英國側見解ヲ非トスル本邦側解釋ニハ米國側モ同意見ト思考スル処米ヨリモ本邦側ト同趣旨ヲ以テ英國側ノ反省ヲ促ス様措置アリ度キ旨米當局ヘ申入方石井子爵トモ御協議ノ上可然御取計相成度シ

英ヘ轉電シ英ヲシテ壽府ヘ轉電佛独伊ヘ暗送セシメラレ度シ

アルヘシトテ篤ト反省ヲ促サシメタル處「マ」ハ自分ハ委シキ事情ハ承知セサルモ御申出ノ事ハ至極尤ノ事ト思考ス兎ニ角關係省タル商務省トモ相談ノ必要アルニ付非公式ニ書翰ノ形ニテ申出アラハ好都合ナリト述ヘタルヲ以テ翌十七日其ノ通り取計置キタル次第ナリ

尙本件ハ貴電第一七二號及松山往電第三九號ノ次第モアリ前記ノ如ク議員ノ質問ニ對シ五月十二日前申請ノモノニ對シテハ増税可能ノ旨ヲ問接ニ述ヘタルモノニシテ對議會策モアルヘキカト思ハル處此ノ際御來示ノ如キ御趣旨ヲ正式ニ公文ヲ以テ申入ルルコトハ却テ先方ノ確證ヲ取付クルニ困難トナル虞ナキニアラス當方トシテハ寧ロ實際的ニ決議有効期間中關稅引上ヲ爲サシメサル様何等カノ確證ヲ與ヘシムル様努ムル事得策カト思考セラルルニ付其ノ方針ニテ進ム事トシ右公文ハ今少シ提出方差控ヘタキ處右ニテ御差支ナキヤ

米、壽府聯盟ヘ轉電シ佛、獨、伊ヘ暗送セリ

86

昭和8年5月25日

伊藤(述史)連盟事務局長代理より  
内田外務大臣宛(電報)

国際経済会議参加国全てに対し関税休戦決議への参加を求める決議案連盟理事会通過について

ジュネーヴ 5月25日後発  
本 省 5月26日前着

第七〇號

二十四日ノ理事会ニ於テ經濟會議諮問組織委員長ハ四月二十九日及五月十二日倫敦ニ於ケル委員會ノ經過ヲ報告セル後理事會ハ八委員國政府力會議前及其ノ開期中現時國際公益ニ關スル障礙ヲ加重スルカ如キ凡ユル種類ノ措置ヲ執ラサルコトヲ決定シ居ルヲ祝シ出來得ル限り多クノ政府力之ニ參加スルコトハ會議繼續中平靜狀態ヲ保ツ爲必要ナルニ鑑ミ會議參加國ノ全部力右協定ニ參加センコトヲ切望ストノ趣旨ノ決議案ヲ提出シ佛、伊、獨、諾威各理事之ニ贊成ヲ表シ智恵古理事ハ議會ヲ通過セル法律及之ニ寄託中又ハ其ノ手續中ノ法律案適用ノ結果タル關稅措置ノ實施ハ右規定ニ反スル措置ト認メラレス組織委員會諒解ノ下ニ決議案ニ贊成スル旨ヲ述ヘ理事會ハ本決議案ヲ通過セリ  
米ニ轉電シ英ニ郵送ス

何等變更ヲ要スルコトアリテハ面白カラザルニ付右ニテ差支ナキヤ又ハ右書翰ハ會議々長宛若ハ聯盟事務總長宛書翰トスベキモノナリヤ或ハ又會議開催後トナルベキニ鑑ミ會議ニ於テ全權委員ヨリ聲明シ之ヲ議事録ニ記載セシムルコトヲ適當トスベヤキニ付貴見回電アリ度シ

(別電)

本省 6月8日後9時30分発

第一四〇號

本決議ノ受諾ニ当リ左記帝國政府ノ解釋ヲ声明ス  
一、帝國政府ハ他ノ政府力留保殊ニ貨幣價值ノ變動ニ關スル留保ニ基キ執ルヘキ措置ヲ豫メ受諾スル義務ヲ負フモノニ非サルコト  
二、他國ニ於テ本決議ノ精神ニ違反スル措置ヲ執リタル場合帝國政府ニ於テ必要ト認ムル手段ヲ採用スルコトハ本決議ノ受諾ニ依リ毫モ妨ケラレサルヘキコト  
三、帝國政府ハ諸國政府力本決議ニ加入スルコトヲ期待シ之ヲ受諾スルモノナルニ付本邦ノ主要貿易關係國力本決議又ハ之ニ代ルヘキ有效ナル取極ニ加入セサル場合ニ執ル

87 昭和8年6月8日 内田外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

関税休戦決議に対し我が方留保声明の発表方法につき照会

別電 六月八日発内田外務大臣より在英國松平大使宛第一四〇号  
右声明案

本省 6月8日後8時40分発

第一三九號

組織委員會決議ハ成ル可ク速ニ御裁可ヲ得「アド、レフェレンダム」ヲ解クノ方針ヲ以テ手續中ナル処各國ノ留保内容既ニ新聞紙ニ掲載セラレ居ル外諸國ノ関稅引上頻発ニ依リ輿論ノ刺戟セラレ居ル關係モアルヲ以テ各國ノ留保ヲ枢密院ニ提示スルト共ニ本決議承認ニ付テハ我方ノ態度ヲ明確ニスル爲ノ聲明(其ノ内容ハ確定セザルモ大体別電第一四〇号ノ趣旨トスル考ナリ)ヲ爲スベキ旨ヲ言明シ右聲明ニ付テモ御裁可ヲ要スル事トナルヤニ思考セラル  
右聲明ハ政府ノ承認ヲ得タル旨ヲ通告スル貴官ヨリ組織委員會議長ニ宛テタル書翰中ニ之ヲ記載スル考ナル処上奏後

ヘキ措置ニ付テハ更ニ考慮スヘキコト

88 昭和8年6月9日 在英國松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

関税休戦決議に対する我が方留保声明の発表方法について

ロンドン 6月9日後発  
本省 6月10日前着

第三一二號

貴電第一三九號ニ關シ  
御來示ノ如キ聲明又ハ留保ヲ附スルコトハ差支無シト思考ス但シ會議開催前ノ日附ヲ以テ回答ヲ送附シ得ルナラハ組織委員會議長宛トスルコト然ルヘク然ラサルニ於テハ聯盟事務總長宛トスルコト然ルヘシト思考ス何レニモセヨ會議開催後トナリ關稅休戦問題力實際討議セラルルカ如キ場合迄回答ヲ遷延スルコトハ面白カラサルニ付成ルヘク速ニ右發送ノ手續ヲ了セラレンコトヲ希望ス

89 昭和8年6月12日 ロンドン国際経済会議全権より  
内田外務大臣宛(電報)

本会議開催早々に予想される米国からの関税  
休戦期間延長提議に対してはアド・レファレ  
ンダムとすることなく承認すべき旨意見具申

ロンドン 6月12日後発  
本省 6月13日前着

第五號

今回ノ會議劈頭ニ於テ米國側力關稅休戰ヲ一定ノ相當永キ  
期間延長セントスル提案ヲ爲スヘキ事略確實ナリト認メラ  
ルル處元來關稅休戰カ我方ニ執リ極メテ望マシキコトナル  
ニモ鑑ミ之ヲ利用シテ我方全般ノ地歩ヲ成ルヘク有利ニ導  
ク様仕向クル方願ハシキニ付テハ米國側新提案ノ内容ニシ  
テ過般組織委員會ニ於テ採擇セラレタル決議ト著シク掛離  
レタルモノナラハ兎ニ角略同様ノモノニシテ御訓令ノ範圍  
ヲ脱セサルモノナルニ於テハ之ニ同意ヲ與フル方得策ナル  
ヘク前同ノ如ク我國内政上ノ手續ヲ理由トシテ關稅休戰ヲ  
「アド、レフェレンダム」トシ承認ヲ留保スルコトハ關稅  
休戰ニ伴フ我方ノ利益ヲ失フニ止マラス會議ニ於ケル我立

リタシ

尚通告済ノ際ハ其ノ旨日附ト共ニ直ニ電報アリタシ

(別電)

本省 6月27日後8時発

第一六五號至急

Sir,

I have the honour, under instructions from my  
Government, to inform you that they have accorded  
approval to the Resolution which was adopted by the  
Governments represented on the Organizing Committee  
for the Monetary and Economic Conference, and accepted  
ad referendum by the Japanese Representative on May  
12th, 1933.

At the same time, I have the honour, under in-  
structions from my Government, to state that their  
approval of the aforesaid Resolution is given on the  
following understanding :

1. The Japanese Government shall not be under

場ヲ薄弱ナラシムル惧大ナルニ付右ノ事情御了承相成リ樞  
密院等ノ關係ニ付テハ豫メ適宜御手配ノ上右ノ如キ提案ア  
リタル場合ニハ「アド、レフェレンダム」トスルコトナク  
承認ヲ與ヘ得ル様御取計相成度シ

90 昭和8年6月27日 内田外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

関稅休戰決議承認の裁可次第連盟事務総長に  
通告方訓令

別電 六月二十七日発内田外務大臣より在英國松平  
大使宛第一六五号  
右通告文案

本省 6月27日後6時30分発

第一六四號至急

貨幣及經濟會議組織準備委員會ニ於テ採擇セラレタル決議  
ニ関シテハ之ガ承認方目下手續中(本月二十八日樞密院本  
會議ニ上程ノ筈)ナルガ御裁可ノ上ハ別電第一六五號通告  
文案ノ通貫官ヨリ聯盟事務総長ニ對シ通告スルコト致度  
就テハ「決議御裁可済」ノ電報アリ次第右通告方御取計ア

any obligation to agree to any measures which any  
other Government have taken or may take on the  
basis of the reservations which have been or may be  
made by such other Government with reference to  
the aforesaid Resolution.

2. The approval by the Japanese Government of  
the aforesaid Resolution shall in no way prejudice  
the adoption on their part of any such steps as they  
may consider it necessary to take by way of defence  
against any such increase in Customs duties or any  
such other measures as are detrimental to the foreign  
trade of Japan, which any other Government, whether  
party to that Resolution or not, have adopted or may  
adopt subsequently to May 12th, 1933.

3. The approval by the Japanese Government of  
the aforesaid Resolution shall in no way affect their  
right to adopt any such measures as they may consider  
it necessary to take for the purpose of safeguarding  
Japan's vital national interests in case of emergency.

I avail myself of this occasion to renew to you,  
Sir, the assurance of my highest consideration.

91 昭和8年6月28日 内田外務大臣より  
在英松平大使宛(電報)

関税休戦決議の承認認可について

本省 6月28日後6時20分発

第一六七號

決議御裁可済(編注)

(欄外記入)

六月二十八日午後六時内閣総務課ヨリ御裁可ズミノ電話アリ  
タリ

編注 本件上奏のとおり裁可については、六月二十八日付

斎藤内閣総理大臣ヨリ内田外務大臣宛公信内閣外甲  
第四十八号により通達された。

92 昭和8年6月30日 ロンドン国際経済会議全権より  
内田外務大臣宛(電報)

モ同シコトニテ強ヒテ斯ノ如キ留保ヲ附スルノ要ナカルヘ  
ク若シ強ヒテ之カ存置ヲ主張セハ我方ニ不利ナル留保ヲ削  
除セシムル上ニ大ナル障碍トナルヘキニ付  
一、右非常ノ場合トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ  
二、會議ノ進展ニ伴ヒ各國共留保條件ヲ減スル方針ヲ採リ且  
我方ニ不利ナル條件ヲ除カシムル上ニ於テ我方カ本件留  
保ヲ削除スルコト必要ナリト認メタル場合ニハ之ヲ撤回  
シテ差支ナキヤ  
右二點當方心得迄ニ至急御同電アリ度シ

93 昭和8年7月4日 内田外務大臣より  
ロンドン国際経済会議全権宛(電報)

関税休戦決議への我が方留保中「非常時の非  
常手段」の解釈振りおよび同字句の削除不可  
等につき訓令

本省 7月4日後8時40分発

第一八號

貴電第九八號ニ関シ

本邦トシテハ各國ト協力シ出来得ル限り通商障害ノ撤廢又

関税休戦決議への我が方留保中「非常時の非常  
手段」の解釈および同字句の削除等につき訓令

ロンドン 6月30日前発  
本省 6月30日前着

第九八號

英發大臣宛電報第三五三號ニ關シ

右留保中非常ノ場合ニ於ケル非常手段ニ付テハ五月十二日  
組織委員會ニ於テ獨逸代表ヨリ同趣旨ノ提議アリタルニ際  
シ他國委員ハ獨逸カ果シテ何ヲ意味スルヤ頗ル疑惑ヲ有シ  
種々臆測ヲ廻ラシ居リシカ結局「サイモン」ヨリスノ如キ  
場合ニハ改メテ會議ヲ開催シテ相談ヲ爲スヘシトノコトニ  
話ヲ纏メタル趣ノ處關税休戦ニ關スル政府ノ趣旨モ成ルヘ  
ク條件ヲ少クセシムルコトニアリト思考シ往電第九四號ノ  
通廿八日ノ經濟委員會ニテモ特ニ此ノ點ヲ説述シタル次第  
ナリ從テ本件愈論議ノ際ニハ日本側ノ非常時ノ手段トハ如  
何ナル場合ヲ指スモノナリヤトノ質問起ルヘクスノ如キ留  
保ヲ爲シ居ル當該國ハ非常ノ名ノ下ニ如何ナルコトヲモ爲  
シ得ヘシトノ非難ヲ受クヘキ惧アルノミナラス實際國家ノ  
安危ニカカル如キ場合ニ非常手段ヲ講シ得ルコトハ各國ト

ハ緩和ノ實現ヲ計ラントスル考ナルハ御承知ノ通りナル処  
組織委員會決議ニ関シ各國ハ重大ナル留保ヲ附シ英國ノ如  
キハ別段ノ留保ヲ附スルコトナキモ決議自体ヨリ自國ニ都合  
好ク解シ得ル余地アルモノトナシ本國及屬領ニ於テ決議成  
立後モ關税引上ヲ爲シ居リ又其ノ後参加セル諸國ニ付テ見  
ルモ本邦ト主要貿易關係ヲ有スル支那、印度ハ關税引上ヲ  
行ヒ殊ニ印度ハ殆ンド其ノ加入ヲ無價值トスル程度ノ留保  
ヲ附セリ之ガ為メ本邦ハ本決議ニ参加スルモ何等實益ヲ受  
クルコトナシトノ理由ヲ以テ「アドレフェレンダム」解除  
ニ反対ノ議論サヘモ一部ニ高マリタル次第ナルガ關係各方  
面ト種々折衝ノ結果在英大使宛往電第一六五號ノ如キ留保  
ヲ附シタル上決議ヲ承認スルコトトナレルモノナリ尚右留  
保ハ日本本文ニテ上奏御裁可ヲ得タルモノノ英譯文ナルガ  
(但シ「留保ノ趣旨トシテ」留保項目ノミヲ上奏セリ)其  
ノ第三項ハ「帝國政府ノ本決議承認ハ緊急ノ場合ニ於テ國  
ノ緊切ナル利益ヲ保護スル爲必要ト認ムル一切ノ措置ヲ執  
ルノ權利ニ毫モ影響ヲ及ボサザルベキコト」トナリ居リ  
In case of emergency (緊急ノ場合ニ於テ)ハ必ズシモ國  
家ノ安危ニカハルガ如キ非常ノ場合ノミヲ指スモノニ非ズ

例へば暹羅等ニ於ケル米ノ作柄ニ依リ関税引上ヲ為スガ如キ場合ニモ適用アリ我方留保ハ主トシテ七月末迄ノ期間内ニ於テモ米穀法第九條ニ基キ米ノ関税引上ヲ為スノ必要ヲ生ズルコトナキヲ保セザルノ事情ヲ顧慮シタルニ基クモノニシテ右留保ノ代リニ米ノミニ付留保スル案モアリタル次第ナルガ斯クテハ御承知ノ通り関係各省ヨリ同様各種品目ノ列挙ヲ希望シ來ル虞アリ他方本決議ノ有効期間ハ多少延長スルコトアルヤニ思考セラレ其ノ場合我方ノ当初ノ留保ヲ拡大セントスルモ大ナル困難ニ遭遇スベシト思考セラレタルヲ以テ多數品目ヲ列挙センヨリモ寧ロ「緊急ノ場合」ヲ挙グル方適當ト思考シタルコト等ノ事情モアリタルニ依ルモノナリ然レ共此際外部ニ対シ米ノ関税引上等ヲ持出スコトハ面白カラザルニ付本件留保ニ付説明ノ要アル場合ニハ右記ニ依リ適宜御措置相成度シ

(イ)本項留保ハ「緊急ノ場合ナルコト」及「国ノ緊切ナル利益ヲ保護スル為」ナルコトヲ要スルモノニシテ英國ノ如ク表面ハ何等ノ留保ヲ為サズシテ實ハ決議ヲ頗ル勝手ニ解釈シ必ズシモ国ノ重大利益ニ影響ヲ及ボスモノナリト認メ難キ品目ニ付テは関税引上ヲ為サントスルモノニア

ラズ

(ロ)本邦留保ハ緊急不測ノ場合ヲ豫想シ居ルモノニシテ特ニ留保スル迄モナキコト乍ラ飽迄決議ニ忠実ナラントスルノ趣旨ヲ以テ為念留保シタルモノニテ其ノ事情獨逸トハ異レルヲ以テ實際問題トシテハ外國ノ危惧スルガ如キ廣汎ナル留保ノ作用ヲ見ルコトナカルベシ

將又貴電末段ノ本邦側留保削除ノ件ニ付テハ右留保ハ決議承認ノ條件トシ一体トシテ上奏御裁可ヲ經タルモノナルニ付更メテ上奏御裁可ヲ得ザル限り撤回スルコト能ハザル次第ニシテ本決議自体モ會議ニ於テ最早既成ノモノナルカ故我方留保撤回ノ問題起ラス尤モ會議後ニモ適用アル新取極ノ締結又ハ本決議ノ延長ニ關スル問題トシテ改メテ留保ガ論議セラルル場合諸外國ニ於テ本決議ニ對スルガ如キ留保ヲ附スル事ナク右取極ガ眞ニ效果アルモノトナラン事ハ我方ノ希望スル處ナルニ付其ノ場合ニハ留保範圍ヲモ出来得ル限り狭小ナラシメ其ノ実現ニ資シ度キ考ナリ

94 昭和8年7月19日 内田外務大臣より  
ロンドン国際経済會議全權宛(電報)

會議休会後の関税休戦決議の有効性に関する  
列国の態度調査回報方訓令

本省 7月19日後4時0分発

第二八號

組織委員會採擇ノ関税休戦決議ハ經濟會議休會スルモ會議ハ終了シタル次第ニアラザルニ付依然有效ノモノト思考スル處列國ノ本決議ニ對スル今後ノ態度御探査ノ上回電アリタシ

95 昭和8年7月24日 ロンドン国際経済會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

會議休会後の関税休戦決議の実効性につき英

国首相との会談について

ロンドン 7月24日後発  
本省 7月25日前着

第一九二號

貴電第二八號ニ關シ

經濟會議存續ノ建前ナル以上關税休戦ハ公然解釋トシテ有效ナルハ勿論ナルヘキモ實際ニ於テハ各國ノ留保澤山ニシテ實効覺束ナシ英國首相ハ石井ニ對シ留保澤山ナルノミナラス曩ニ米國次テ佛國力約ニ反シ増税シタルニ顧ミ決議ハ事實消滅ニ歸セルモノト見得ヘキカ如シト語レル位ナリ(右米、佛増税ノ點ハ事實取調ヲ要スヘキモ不取敢首相談話ノ儘電報ス)